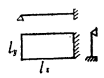
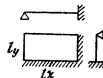
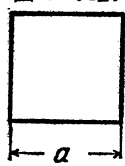





昭和 31 年度土木学会制定 コンクリート標準示方書

正 誤 訂 正 表

ページ	行	誤	正
13	表 2	20 [・] 55	20 [・] 55
16	上から 13	試験 よつて	試験によつて
38	下から 1	JISA [・]	JIS A 1113 ^〇
102	表中, 動荷重の場合, w, t^2 にかける係数	0.050 0.045	0.050 ^{**} 0.045 ^{**}
105	[参考] 1. 上から 4 ツ目の図		
123	表 13	応力度をうけさせる場合	応力をうけさせる場合
192	下から 1	(JIS A 1126 [・])	(JIS A 1126 案 ^〇)
201	上から 13	液頭が B 標線から, C 標線まで	液頭が B 標線から C 標線まで
209	下から 10	荷重のとき	載荷のとき
215	上から 4	3.2.1	5.2.1
217	付 表 1 下から 6	フジ ラの ン幅	フジ ラの ン幅
225	上から 5	引張張サは	引張強サは
		図 1 丸鋼 図 2 角鋼	図 1 丸鋼 図 2 角鋼
227	図 1 図 2	 	 
236	上から 15	少なくとも 0.11%	少なくとも 0.1%
248	表 3	引張試験 (引張強サ kg/mm ²) [・] <small>ネジリ試験 (ネジリ回数)</small>	引張試験 (引張強サ kg/mm ²) ^〇 <small>ネジリ試験 (ネジリ回数)</small>
248	" 下から 7	備考 1.	備考 1.
251	下から 1	4.3	4.3
262	上から 13	ジグギング試験の (2 [・]) と同様に	ジグギング試験の (2 ^〇) と同様に
264	" 4	8.3 7.4	9.8 8.4
264	" 7	モルタルの練り混ぜは 5 [・] による	モルタルの練り混ぜは 5 ^〇 による
271	" 1	試験溶液 (3 [・] 参照)	試験溶液 (3 ^〇 参照)
271	" 16	溶液は (1 [・]) または (2 [・]) に	溶液は (1 ^〇) または (2 ^〇) に
272	" 14	(1 [・]) で規定す	(1 ^〇) で規定す
273	注 ⁽¹¹⁾	試料の損失重量 (6 [・] 参照)	試料の損失重量 (6 ^〇 参照)
276	上から 1	(JIS A 1126-1956 [・])	(JIS A 1126 案 ^〇)
278	" 6	乾燥収縮より 0.01 以上	乾燥収縮より 0.01(%) 以上
280	" 11	(i) 試料は JIS R 5202	試料は JIS R 5202
280	上から 11	2.1 試料 によつて	2.1 (試料) によつて
284	" 16	フルイでふるって, 寸法	フルイでふるつて寸法
298	下から 3	注 ⁽⁷⁾ ⁽¹⁰⁾ 参照	注 ⁽⁷⁾ 注 ⁽¹⁰⁾ 参照
302	上から 15	4) この試験方法は	3) この試験方法は
302	下から 1	材料の分離が ひく おこる	材料の分離が ひどく おこる
314	" 12	水をとるにはピペットを用い	水をとるにはピペットまたはスポイトを用い

ページ	行	誤	正
316	下から 3	量試験方法による。	量試験方法による。
318	” 13	計量できるものとする。	計量できるものとする。
322	上から 5	図-1 型 ワクの図 ⁽³⁾	図 1 型ワクの図 ⁽³⁾
322	” 6	図-2 (1) ゲージプラグ	図 2 (1) ゲージプラグ
322	下から 11	図-2 (2) プラグ挿入穴の詳細	図 2 (2) プラグ挿入穴の詳細
323	上から 12	図-3 測定器の図 ⁽⁴⁾	図 3 測定器の図 ⁽⁴⁾
325	下から 13	適当に加えてもよい ⁽¹⁰⁾ 。	適当に加えてもよい ⁽⁹⁾ 。
326	上から 7	供試体の材令が	供試体の材令が
326	” 15	図-4	図 4
327	下から 3	$\frac{\left(\begin{array}{l} \text{各測長時はおけ} \\ \text{るダイヤルゲー} \\ \text{ジの読み (mm)} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{l} \text{基長測定時のダ} \\ \text{イヤルゲー} \\ \text{ジの読み (mm)} \end{array} \right)}{\text{基 長}^{(19)}(\text{mm})}$	$\frac{\left(\begin{array}{l} \text{各測長時におけ} \\ \text{る有効長 (mm)} \end{array} \right) - (\text{基長}^{(19)}(\text{mm}))}{\text{基長}^{(19)}(\text{mm})}$
329	上から 13	図-1 ⁽³⁾ 型ワクの図	図 1 ⁽³⁾ 型ワクの図
330	” 12	図-2 刻線器	図 2 刻線器
331	” 1	図-3 (1) ⁽⁴⁾ 測定器の図	図 3 (1) ⁽⁴⁾ 測定器の図
331	” 2	図-3 (2) 測定器の写真	図 3 (2) 測定器の写真
332	” 1	備考 図-3 について	備考 図 3 について
335	” 4	図-4	図 4
336	下から 12	$\frac{\left(\begin{array}{l} \text{各測長時における} \\ \text{マイクロメーター} \\ \text{の読み (mm)} \end{array} \right) - \left(\begin{array}{l} \text{基長測定時のマ} \\ \text{イクロメーター} \\ \text{の読み (mm)} \end{array} \right)}{\text{基 長}^{(15)}(\text{mm})}$	$\frac{\left(\begin{array}{l} \text{各測長時におけ} \\ \text{る有効長 (mm)} \end{array} \right) - (\text{基長}^{(15)}(\text{mm}))}{\text{基長}^{(15)}(\text{mm})}$
338	下から 6	たとえば、AE 材の	たとえば、AE 剤の
347	表 2 (中程)	粗骨材最大寸法	粗骨材の最大寸法

書 評

橋梁研究会編 鋼橋設計資料 技報堂刊

本書は、長年国鉄において使用していた鋼鉄道橋設計示方書が改訂になったので、その新示方書の全文(巻末)とそれにもとづく設計資料とを集録して1冊にまとめたものである。元来この示方書は支間120m以下の単純プレートガーダーおよび単純トラス構造のリベット結合鋼鉄道橋の設計に適用するものであるが、これら鋼鉄道橋を新示方書によつて設計する場合に必要な図表や数値表をその内容としている。もちろん示方書に直接関係はなくても、設計の際必要と思われるものは、極力集録されているので、鋼鉄道橋の設計者にとつては非常に便利なものである。またこの本がなければ鋼鉄道橋の設計は不可能であるといつても過言で

はないであろう。また鉄道橋でない鋼橋の設計者にとつても相当参考になるであろうし、また学生諸君が、鋼橋の設計課題をやるときも絶対に必要と思われるし、また構造力学の演習のときもある程度参考になるかも知れる。

またこの本の中の図や表はインキングしたもの写真版に取つたものであるから、この種の本で絶対に避けねばならぬミスプリントも、その結果絶無に近いと思う。またそのオフセット版による印刷も非常に鮮明である。

またこれら資料の使用法すなわち解説は活判印刷の関係からか、別冊として添付されている。使用法というものは一度覚えてしまうと不必要

なもので、これが本文の間に混在していると、熟練した使用者はかえつてページ数の増大をきたして邪魔になるものである。この点解説が別冊であることは偶然かも知れないが成功していると思う。

ただちよつと気になることは用語である。示方書の本文はせん断力などと統一用語を用いているのに、資料の方では剪断力となつている。また場所によつて単純桁となつたり単桁となつたりしているのも一考をうながしたい。

本書に集録された資料以外にも貴重な資料が、編集者の所にはたくさんあると思うが、これらは将来増補されるか、続編として刊行されることを望んでおきたい。

B5判、横トジ、箱入、本文125ページ、別冊解説、B6判42ページ、定価350円、昭・31・7。発行